

# Challenger

## Topics

### 令和6年度栃木県農業担い手躍進大会にて 優良担い手表彰で最優秀賞（知事賞）を受賞

栃木市 會田 文雄さん



最優秀賞を受賞した栃木市の會田文雄さん

令和6年11月20日にとちぎ男女共同参画センター（パルティ）で令和6年度栃木県農業担い手躍進大会が開催され、優良担い手表彰の優良認定農業者の部（個人）で栃木市の會田文雄さんが最優秀賞（栃木県知事賞）を受賞しました。

會田さんは、いちごを経営の基盤とし、水稲とさつまいもの栽培にも取り組んでいます。

いちごでは、「とちあいか」を積極的に導入し、地域内における同世代の生産者を技術的・精神的に牽引するなど、地域の中心的な担い手になっています。また、新規就農希望者に対して、市の就農相談会での助言や体験ほ場の提供

を積極的に行っています。また、外国人技能実習生の受け入れや、地域内の若者や女性の雇用にも積極的に取り組み、就業の受け皿としての役割も担っています。

水稲では、大型機械を共同利用するなどして、コスト削減を図りながら、農地の集積を積極的に進め、耕作放棄地の発生防止にも尽力しています。

今後も、経営の中心であるいちごの生産拡大や労働力の確保などに取り組み、農業経営の向上を目指すとともに、地域の発展に貢献できるよう、様々な活動に挑戦し続けたいと意欲的です。

# 表彰事業・コンクールの結果

## 栃木県農業大賞

### ★ 農業経営の部 栃木県知事賞

栃木市 株式会社Universal Yard  
代表 舛田 愛さん・真由美さん



「第6回栃木県農業大賞」において、農業経営の部で栃木県知事賞を受賞されました。

舛田さんは大学卒業後、名誉農業士の大山寛さんのもとの研修した後、平成10年に就農しました。現在の経営面積は120aで、雇用は社員2名パート17名となります。

トマト経営をする上で、特に意識しているのが作業効率の向上です。従業員をチーム分けし、それぞれのハウスに固定することで、移動時間を削減しています。また、トマトの管理作業で使用する高所作業台車による作業は、足場が不安定なことによる作業効率の低下や転倒のリスクが課題でしたが、作業レーンを導入することで、安心・安全に効率よく作業ができるようになりました。さらに、レーンを導入したことにより、自動農薬散布機も導入することができ、農薬の被曝が減り、安全な作業が可能となり、さらに均一に散布できるようになりました。

令和6年8月1日に「株式会社Universal Yard」を立ち上げました。会社名には、年齢や性別・障害の有無に関係なく、誰もが安心して活躍できる職場にしたいという思いを込めました。今後の展望として、農業を中心に様々な事業に挑戦する決意を新たにしています。

### ★ 芽吹き力賞 栃木県知事賞

栃木市 野口 夏希さん



「第6回栃木県農業大賞」において、芽吹き力賞の部門で栃木県知事賞を受賞されました。

野口さんは、令和3年に当時33歳で就農し、昭和初期に祖父が始めたぶどう栽培の3代目として引き継ぎました。大学院卒業後、モノづくりに携わる仕事に関わりたくて、日清食品ホールディングス株式会社に入社し、製品開発部に8年間所属してインスタントライス「カレーめし」の開発等に携わりました。さらなるキャリアアップを志向し、アサヒビール株式会社の製品開発部門への入社が内定していましたが、そのタイミングで両親から農業経営継承の相談を受け、民間企業でのキャリアアップか個人事業主としての農業経営か、悩み抜いた末に就農する道を選びました。

就農当初から、「代々培われてきた知識、技術」と「自分が得てきたモノづくりにおける考え方、経験」を緩やかに融和させて、経営者として、地域の生産者として、一步一步成長していくことを志し、「シャインマスカット」の長期貯蔵、夏季の高温対策として品種の転換、新規薬剤の活用方法の検討などに、精力的に取り組んでいます。

今後は、自己の経営だけでなく地域や産地の発展に貢献できるよう仲間と協力しながら、自分が得てきた知識や経験を活かしていきたいと将来展望を描いています。

## 大日本農会表彰事業

### ★ 緑白綬有功章 栃木市 大塚 幸八さん 節子さん



長きにわたる農業経営改善の功績及び地域農業発展の貢献が認められ、11月14日に開催された「令和6年度大日本農会農事功績者表彰」で緑白綬有功章を受賞されました。

大塚さんは昭和48年に就農し、米麦経営に加え、いちご栽培を開始しました。後に和牛肥育を導入して経営を拡大しました。

平成3年にはバラ栽培を導入し、平成5年からはバラの専作経営となりました。

バラ栽培ではロックウールシステムや、アーチング仕立てを導入することで上位等級の割合が高まることを実証し、その成果が他農家にも波及しました。さらに、自動環境制御による温度や湿度の管理により、高品質バラの安定生産と省力化を実現しています。

平成20年から米麦部門を再開し、自ら生産を行うほか、栃木市農業公社からの委託を受けて稲刈り等の作業を請け負うなど、農地の引き受け手として活躍し、地域の農地維持に貢献しています。また、土地改良区の推進員を長年務め、土地改良区の合併の際は、副理事長の要職を務め、策定から事業完了まで換地交渉等改良区をまとめあげるなど、精力的に活動しました。

平成26年から現在も「遊泉の会」の会長職の重責を担い、生き物調査を通じて水田等における生態系の多様性について参加者の理解を深めるほか、鳥獣害対策にも積極的にに関わり、被害軽減を図りながら、地域一体となって環境保全活動に貢献しています。

## 毎日農業記録賞

### ★ 最優秀賞 小山市 篠原 和香子さん



株式会社篠原ファームの篠原和香子さんが、「第52回毎日農業記録賞」の一般部門で最優秀賞を受賞されました。

篠原さんは、50年以上続くいちご農家2代目のパートナーとして、家族とともに「株式会社篠原ファーム」を経営しています。平成29年には、自身と娘の夢を叶えるため、“いちご農家がプロデュースする洋菓子店”「Chez Fraise (シェフレ)」をオープンしました。オープン当日の盛況ぶりを見たとき「いちごの魅力といちごへの関心の高さを実感し、自らが描いたビジョンとお客様が求める価値は同じであると確信できた」と振り返っています。付加価値を高めるために、イタリア製のジェラートマシンを導入し、自家製いちごと県産生乳を使った新商品開発にも挑戦しました。

令和2年には、“いちごの魅力を最大限に発信する店”というコンセプトで、いちご専門店「いちご日和り」をオープンしました。いちごハウスが隣接する店舗では、朝採りいちごやいちごのケーキ、いちごをまるごと使ったスムージーボンボンなども販売しています。

篠原さんは人材育成にも力を入れており、後継者や従業員が働きやすい環境を整えることに加えて、地域農業者のために6次産業化セミナーの講師を務め、自らの経験を踏まえたアドバイスを行っています。さらには、栃木県女性農業士としても、食育活動などに精力的に取り組んでいます。これからやりたいことは、「農家レストランとキッチンカー」と語る篠原さん。篠原さんの努力と挑戦はまだまだ続きます。

## 栃木県肉用牛総合共進会

### ★最優秀賞(農林水産大臣賞)

小山市 山岸 万美さん



令和6年11月29日(金)に東京都中央卸売市場食肉市場で開催された「第41回栃木県肉用牛総合共進会 肥育部門 黒毛和種の部」で最優秀賞を受賞しました。

栃木県肉用牛総合共進会は、牛の資質を十分に引き出しつつ経済性の向上を目指すための研鑽の場、また「とちぎ和牛」の実力を県内外にアピールする場として、毎年開催されています。

共励会の成績の平均が、枝肉重量600kg、BMS(脂肪交雑)10のところ、山岸さんの出品牛は、枝肉重量691kg、BMS12で、「とちぎ和牛」の特徴である重量が大きく迫力ある枝肉を体現したものでした。「迫力のある枝肉づくり」を目指す枝肉重量を追求した飼養管理が実を結びました。



## 新農業士・名誉農業士の紹介

1月8日に栃木県公館において、令和6年度栃木県農業士・女性農業士・名誉農業士認定式が挙行されました。

管内からは、農業士3名、名誉農業士3名が新たに認定されました。

名誉農業士の皆様には、長年にわたり農業士として活動し、農業振興にご尽力されたご功績に感謝します。また、新農業士の皆様には、地域農業の振興のためにご活躍されることを期待します。



福田知事との記念写真

### 新農業士

★ 栃木市 舩田 愛さん・真由美さん

・経営類型 トマト・水稻・野菜

株式会社Universal Yardを設立し、家族とともに、トマトを主体に水稻と直売野菜の複合経営を行っています。作型の工夫や、作業マップの導入による収穫ロス削減への取組、ICT化による業務の効率化や生産性の向上に努めており、地域でも突出した単位収量を上げています。



## 新 農業士

### ★ 栃木市 三ツ森 俊介さん・紀子さん

・経営類型 いちご・水稲・麦  
いちごを主体に水稲、麦の複合経営を、自身とパートナー、長男、義理の両親と一緒に家族で行っています。ナイヤガラ育苗や自動ラップ機の導入、ICT の活用による作業の効率化・省力化に取り組んでいます。令和6年産から全面積「とちあいか」に切り替え、地域平均より高い収量を上げています。



### ★ 小山市 齋藤 雄志さん・久美さん

・経営類型 肉用牛（一貫）  
株式会社サイトウ農場を設立し、肉用牛を主体として、水稲、飼料用米、稲WCS を含む複合経営を行っています。繁殖・肥育和牛一貫経営を行うことで子牛導入の価格変動リスクを抑えられ、環境変化による牛のストレス軽減にもつながっています。また、ICT機器を活用し、事故率ゼロを目指した経営を行っています。



## 新 名誉農業士

### ★ 栃木市 谷中 克巳さん

・経営類型 いちご・水稲  
・農業士活動 17年  
いちご新品種の栽培技術確立、高設ベンチ栽培技術の確立など技術実証と後継者の育成に尽力されました。また、JAしもつけ栃木苺部会長等を歴任し、長きにわたり地域振興のリーダーとして活躍されました。

### ★ 下野市 野村 君子さん

・経営類型 肥育牛・水稲  
・女性農業士活動 21年  
「野村牧場直売所」を開設し、6次化や農村活性化、女性ならではの視点で自身の経営発展や農村活性化に尽力されました。また、下都賀地区女性農業士会長等を歴任し、長きにわたりリーダーとして活躍されました。

### ★ 壬生町 鯉沼 玲子さん

・経営類型 花苗生産  
・女性農業士活動 23年  
女性起業グループ「マミーポットみぶ」の活動をはじめ、壬生町の農村女性会議「壬生娘町（みぶこまち）」の代表を務め、農業・農村の男女協同参画を牽引してきました。また、栃木県女性農業士会長等を歴任し、長きにわたりリーダーとして活躍されました。



左から鯉沼さん、福田知事、谷中さん、野村さん

# 認定農業者 紹介

## 産地をリードする トマト経営を目指して

栃木市 今井 卓さん

### 【経営の概況】

作付面積：トマト 123 a

労働力：家族 2人（本人、息子）

従業員 20人

### 【経営の発展経過】

平成元年から10年間のサラリーマン生活を経験したのち、親元に就農しました。当時は、米麦主体の経営を継承するつもりでしたが、担当の普及指導員と相談するうちに、より収益性の高いトマトに魅力を感じ、導入を決意しました。研修はJAしもつけ栃木トマト部会のトレーナー制度を活用し、トマトの経営管理や栽培技術を1年間学びました。

平成12年に、30aの高軒高ハウスを新設し、トマト経営を開始しました。補助事業を活用して、平成14年には38aの高軒高ハウスを増設し、平成23年にはさらに55aを増設し、現在の123aとなりました（中間室を含めた総施設面積は130a）。

令和5年産より息子が1年間の研修を経た後、後継者として就農しました。

また、令和7年産からJAしもつけトマト部会長を務めています。



右：卓さん(55歳)、左：寿太郎さん(27歳)

### 【経営の高度化・効率化】

トマトの大規模経営を成り立たせるためには、省力化・効率化・人材育成が極めて重要です。

これまでに、ハウス内に広い中間室を整備し、作業機の屋内への設置や、農機具や資材の整理整頓、休憩室の設置などを行い、労働環境の改善等に取り組んできました。

今年度から新たに始めた取組としては、レールの設置です。トマトでは高所作業台車に乗って管理作業を行いますが、レールの設置により作業台車の操作に気を取られることが無くなり、作業効率が向上しました。また、レールの設置と一緒に自動農薬散布機を導入したことで、薬剤散布の手間を省力化することができました。



左：管理作業の様子 右：自動農薬散布機

### 【今後の目標】

個人としての目標は経営移譲の準備を進めていきたいと考えており、現在、息子には新たに雇用した従業員への指導や現場での指示出しを任せています。数年後にはハウスの栽培管理も任せたいと考えています。

JAしもつけトマト部会長としては、シーズンを通じて産地の収量や品質を向上させることに努めています。そのためには、新たな品種の試作や栽培時期の検討などを部会の先頭に立って取り組んでいきたいです。

また、市場や消費者の声を積極的に取り入れることで販売金額を向上させ、次の世代がトマトに夢を抱けるような産地の育成に全力で取り組みたいと考えています。

# 集落営農法人 紹介

地域の営農を担うため結成  
～最初から法人組織で！～

壬生町 株式会社かみいなば

## 【法人の設立経過】

そもそもは、土地改良から始まりました。

令和5年、上稲葉地区圃場整備事業推進協議会の会長から会議後、相談がありました。

「基盤整備が終わったら、そこを耕作する集落営農組織に農地を担ってもらいたい。個人の担い手だけでは集約しきれるとは限らない。担い手に集約できれば圃場整備の各人の負担額が減らせる。ぜひ集落営農の経営体を作りたい」と。

その後、地域の会議のたびに組織発足の希望者で残って集落営農組織について検討を重ねました。

「任意の営農集団組織でもいいじゃないか」「個人の担い手でも集約できるのではないか」「自分の施設園芸にプラスして組織の仕事ができるのか」などの、様々な意見が出され、最終的に4人（代表取締役 伊藤博氏）で、令和6年11月29日に「株式会社かみいなば」が登記、設立されました。



宇都宮市海道地区の事例を研修



営農部会～土地改良後の作付け検討～

## 【今後のスケジュールと法人として目指す経営】

圃場整備工事期間中は、法人のメンバーはそれぞれの施設園芸部門や他産業勤務を収益の柱として生活します。

その一方、まず令和7年産の麦を自分たちの耕地に作付けします。当面は農業機械も自分達のものを活用します。徐々に土地改良工事の進捗に伴って農地を借り受けて作付けを拡大していく予定です。

現在、集落の農地の出し手農家向けにPRチラシを作成中です。

その後の5年程度は「実際に耕作をしている姿を見せる」営農実績こそが最大の宣伝と思い、活動していく予定です。

10年後は、雇用就農希望者を採用し、80ha規模を経営するような地域農業を担っていける会社にしていきたいと考えています。



# 10年後の地域農業の設計図「地域計画」策定から実行へ

## 1 地域計画のねらい

農業者の高齢化や減少等に伴い、将来、農地の継続的な維持管理が懸念される中、令和5(2023)年4月1日に改正農業経営基盤強化促進法が施行され、従来の「人・農地プラン」が「地域計画」として法制化されました。

「地域計画」では、地域の話合いにより10年後を見据えた地域農業の将来のあり方や担い手ごとに利用する農用地等を示した「目標地図」を定めることになっており、持続可能な地域農業の構築を目指しております。

下都賀地域では、5市町100地区で昨年からの話合い（協議の場）が進められ、関係者への意見聴取を経て、令和7年3月末に各市町により公告され、地域計画が策定となります。



地域の話合い（協議の場）の様子（栃木市）

## 2 策定後も検証と見直しで、継続的な取組を！

地域計画は手段であり、計画に定めた目標（農用地の集積・集約化等）の実現に向けて、地域ぐるみで実行していくことが大切です。

また、策定後も地域での話合いを継続し、計画の検証と見直しを随時繰り返し、計画のブラッシュアップを図り完成度を高めていくことが重要です。

認定農業者の皆様には、今後も各地域で開催される話合い（協議の場）に積極的に参加され、計画推進の牽引役になっていただくようお願いします。

## 3 令和7年4月から、

### 農地の賃借方法が変わります

農業経営基盤強化促進法の改正に伴い、令和7年4月から農地バンクを利用した貸し借り（農地バンク法）に一本化されるため、農地の出し手と受け手の直接の貸し借りはできなくなります。つまり、本法に基づいた農地の貸し借りには、農地バンクの利用が必要となります。



※農地法第3条に基づく貸し借りは変更ありません。

前述の地域計画の区域内において、農地バンク法に基づき農地を借りることができるのは、原則、目標地図に掲載された受け手（農業を担う者）となります（掲載がない場合は各市町へ御相談を）。

## 4 農地賃借の事務スケジュールに要注意！

令和7年4月以降は、「令和7年5月31日まで」と「令和7年6月1日以降」に貸し借りを開始する場合は、事務手続きが異なりますので、御注意ください（詳しくは市町窓口にて御相談を！）。



農地賃借の事務スケジュール

なお、農地バンクを活用した、農地の集積・集約化は、機構集積協力金（地域集積協力金、集約化奨励金）の対象になる可能性がありますので、市町窓口にて御相談ください。



# 実証展示ほ紹介

## 1 『にっこり』の果肉障害対策の実証

令和5年から夏の高温により、なし晩生品種に高温障害が発生し、深刻な問題となっています。そこで、「にっこり」で剪定方法や、日焼け防止資材による高温障害軽減効果を検証しました。

剪定方法の違いでは、枝の密度を高めることにより、満開後176日時点で日焼けの発生が50%、果肉障害の発生が26%軽減されました。また、日焼け防止資材については、効果の程度にばらつきがあったため、結果は判然としませんでした。

今後の対策として、枝の密度を高める（枝の間隔を約20cm程度）ことにより、日焼けや果肉障害の軽減が期待できます。



枝の密度を高めた区の様子(左上)、  
日焼け防止資材(右下)

## 2 露地野菜(夏ねぎ)の 地域に合った優良品種の選定

夏期収穫のねぎ作型は抽台の発生が起りやすく、作付けできる品種が少ないため、下都賀地域に適した夏ねぎの品種の選定を行いました。

11月末に定植し、翌年6月下旬から7月上旬に収穫する作型で4品種を比較したところ、抽台は「夏扇パワー」と「初夏一文字」で5月頃から発生しましたが、「羽生一本」と「陽春の宴」では収穫時にも発生がありませんでした。

また、収穫時期の品質調査では、調整後の葉鞘径および一本重は「夏扇パワー」が最大で、「初夏一文字」が最小となりました(表1)。

夏ねぎの生産拡大に向け、各品種の特徴を参考に、品種の導入を進めていきます。

表1 収穫時期の調整後品質調査(6月26日実施)

	葉鞘径 (mm)	一本重 (g/本)
羽生一本太	19.6	155
陽春の宴	19.2	159
初夏一文字	18.4	152
夏扇パワー	20.1	175

※調整は葉4枚を残して剥き茎盤部から長さ58cmでカットした

## 3 飼料用米における ペレット堆肥施用技術の実証

飼料用多収品種「夢あおば」の栽培において、堆肥利用の有用性を実証するため、化成肥料使用量の一部を堆肥に置き換える試験を行いました。

慣行区は、飼料用米専用全量基肥(窒素成分量9.6kg/10a)施肥とし、試験区は汎用高度化成(同5.6kg/10a)、豚ふんペレット堆肥(同4.0kg/10a相当)を施肥しました。両区とも出穂期は7月28日、成熟期は9月25日と生育の遅速は同等でしたが、茎数や出穂以降の葉色値が試験区で値が小さくなりました。収量は慣行区の674kg/10aに対し615kg/10aと、慣行区に及びませんでした。

今後、慣行栽培同等の収量確保に向けて、堆肥の投入量や、組み合わせる化成肥料の使い方について再検討していきます。



出穂前の飼料用米「夢あおば」の姿  
(左：慣行区、右：試験区)

## アグリマネージメントセミナー活動報告

### (1) いちご部門

栽培が急速に拡大している新品種「とちあいか」の栽培技術向上を目的として、11月27日に鹿沼市の優良生産者視察を実施し、生産者と関係者合わせて22名が参加しました。モニタリング機器を活用した温度管理や品種特性に合わせた栽培手法について理解を深めることができました。



視察先生産者との情報交換

### (2) トマト部門

トマトの栽培技術向上と品種比較を目的として、12月18日に上三川町の生産者3名のほ場にて視察研修を実施し、生産者と関係者合わせて16名が参加しました。高温対策や青枯病の対策、下都賀管内では栽培が少ない品種について情報収集と意見交換を行いました。



トマトの栽培状況を見ながらの意見交換

## 新規就農者調査にご協力ください

県では毎年、新たに就農した方の調査を実施しています。令和6(2024)年5月1日から令和7(2025)年4月30日の間に新規就農された方(後継者・新規参入者・雇用就農者)をご存じの方は下記まで情報提供をお願いします。提供いただいた情報を元に、御本人に確認の上、技術支援や研修会の御案内をさせていただきます。

### 情報提供いただきたい内容

※分かる範囲でけっこうです

- お名前    年齢    連絡先電話番号
- 住所または市町名    栽培品目
- 後継者・新規参入者・雇用就農者の別

### 連絡・問合せ先

経営普及部 経営指導課

### 発行

栃木県下都賀農業振興事務所  
栃木市神田町5-20

経営普及部 ☎ 0282(24)1101  
FAX 0282(23)6563



下都賀農振

検索

